

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	0671600260		
法人名	社会福祉法人睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地	山形県天童市大字道満176-1		
自己評価作成日	令和 3年 月 日	開設年月日	令和 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・コロナで外出の制限がされている為、屋内の行事を充実させている。季節を感じられる行事や装飾作りに力を入れ、お菓子も一緒に手作りしている。また、月数回レクリエーションの日を設ける事で、体を動かす機会にもなっている。
 ・毎日の食事は管理栄養士が立てた献立をもとに、手作りしている。週2回は入居者の希望を聞き、食べたい物を取り入れるようにしている。ホールの台所で作る為、温かい状態で提供出来、調理中の音やにおいなどでも、グループホームならではの家庭的な雰囲気を感じて頂いている。
 ・天然温泉があり、温泉のお湯を利用したお風呂と床暖房が完備されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和3年 8月 2日	評価結果決定日	令和3年 8月 12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症拡大の下で外出等の制限がある中、事業所内で職員の主体性を活かしレクリエーションを工夫し、おやつ作りの日や作品つくりの日など「心地よい暮らし」の支援の実践に努力している。職員の振り返りのアンケートや管理者等との面接により、職員一人ひとりのケアの実際や力量、思いが把握され、指導が行われ、毎月事業所の実状に応じた研修が行われるとともに、外部研修への派遣もあり、学ぶ機会を大切にしている。職員の主体性を活かすこと、職員を育てる仕組みや職員間の連携を大切にすることが職員の生き生きとした働く姿を生み、家族等の安心感につながっている。研修と訓練を基に避難確保計画の見直しが行われ、水害対策では、実際に隣のケアハウスの上層階への避難訓練を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から必要とされるグループホーム」を理念に掲げ、事務所に理念を掲示し、職員の意識付けをしている。以前は、地域行事に参加したりしていたが新型コロナウイルス感染症対策の為に参加出来ない状況である。	理念とともにグループホームの基本方針を掲示し、それを基にユニットの目標を職員間で話し合い毎年作り、理念の共有と実践に繋げている。「利用者一人ひとりの自分らしい暮らし」を支援するため、利用者の出来ること、やりたいことを大切にしている。感染症拡大の中で外出等の制限があるが、事業所内で、リクレーションを工夫し、おやつづくりの日や作品づくりの日など職員のアイデアを活かし、「心地よい暮らし」の支援の実践に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、学生の訪問、災害時に地域の方の参加協力を頂き、訓練にも参加していただいている。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策の為に、地域行事への参加は出来ていない。毎年地域の方に協力いただいている訓練も入居者・職員のみで実施した。	理念に「地域の社会資源としての役割を果たす」ことを掲げその実践に努力している。今年は感染症対策もあり、認知症カフェの中止等様々な制限がある中、感染症対策を行いながらボランティア等の来訪もあり、またマスクや団子木の差し入れなども地域とのかかわりを大切にしている。隣の神社では、神事が行われ、窓越しから利用者がかかわることなど、住民との関りも大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天童市の認知症カフェ(あったカフェ)にグループホーム協会員として行政と連携し、運営スタッフとして参加している。家族交流会には、認知症への理解と支援の講話内容に努めている。昨年度からは、新型コロナウイルス感染症対策の為に、認知症カフェ・家族交流会は中止になっている。家族の参加はなしにしたが、入居者と職員で芋煮会を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、利用者の支援・サービス内容の報告を行い、会議での意見を反映させている。職員も会議に参加し、会議録の回覧で運営内容の理解や職員内での共有を図っている。又、会議録をおたよりに掲載し、御家族様にもお知らせしている。昨年度からは、新型コロナウイルス感染症対策の為に、書面での開催となっている。	福祉協力員、民生委員、老人クラブ会長、包括職員、家族代表、市職員で2か月に1回開催している。感染症対策もあり現在は文書での開催である。内容は事業所の状況報告や研修の成果、ケアプラン作成の流れの説明等が提示され意見等を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度の介護相談員の来訪や、運営推進会議に市の担当者からも参加して頂き、事業所の実情や取り組み等を伝えている。昨年度からは新型コロナウイルス感染状況により、文章でのやり取りとなっている。	感染症対策もあり現在介護相談員の来訪は中止されている。運営推進会議の報告により事業所の状況の説明が行われている。個別の問題等はそれぞれの担当窓口と連携し問題解決に向け協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束をしない方針で取り組み、尊厳ある暮らしを提供することについて委員会を中心に検討を行っている。日中玄関の施錠はせず、センサーチャイムを設置し、外に出て行く入居者の方には、付き添い、拘束しない工夫をしている。転倒の危険などがある入居者の場合には、動きが分かるように、鈴や離床センサーを使用する事を、御家族様の了承をいただくと共に、毎月カンファレンスを行い、見直しを行っている。	身体拘束適正化のための指針を作り委員会を事業所内に設置し、毎月委員会を開催することで身体拘束をしないケアを周知している。委員会では、虐待チェックリストを基に職員全員で普段のケアを振り返りながら不適切なケアなど無いよう確認している。利用者の危険防止のためのセンサー等の使用も、毎月委員会でカンファレンスを行い、適切な安全確保の環境を作り、身体拘束を行わないで過ごせるよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、研修内容の回覧・全体会議で研修の報告を行っている。虐待の種類やどこからどこまでが虐待になるのかを学んだり、委員会が中心となり職員に虐待に関するアンケートを実施し、日頃のケアを見つめ直す機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行い、学ぶ機会を持ち、職員同士話し合い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの十分な説明と、家族との絆を継続出来る方法を納得頂いた上で、契約内容を詳細に説明している。入居後も相談を随時お受けし、家族との信頼関係を築く大切な機会と意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ年に1回アンケートをお願いし、要望や意見を頂いている。改善点を検討し回答、実施している。玄関先にご意見箱や気付いた事を記入するノートを置いている。記入の無い現状ではあるが、直接要望や意見を頂く事も多く随時対応している。	例年であれば、家族会や面会等で家族とのかかわりが多かったが、感染対策のため制限されている。中でも玄関に利用者の日常の写真を掲示したり、窓越しの面会など工夫している。ホームページからリモートでの面会も進められている。毎年家族あてのアンケート調査が行われ意見等を頂いている。現在中止しているが介護相談員の来訪があり利用者が外部者に意見等表せる機会として大切にしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度管理者も同席し主任会議を行い、職員からの意見等を主任・副主任から伝えたり、相談したりする事が出来ている。又、常に管理者へ職員が意思や思いを伝えやすく聞き入れられる環境が出来ている。年に1回職員へ振り返りのアンケートを実施し一人ひとりに管理者からのメッセージがあり、仕事へのやる気に繋がっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、各職員に合った勤務時間・勤務体制等を考慮している。給与・手当においても勤務状況を考慮したものとなっている。受講したい研修の希望も取り入れており、やりがいのある職場環境である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の情報を主任会議等を通し把握し、研修内容の希望を聞き、施設内で研修を行ったり、外部の研修に参加する機会を作っている。昨年度からは、新型コロナウイルス感染症対策の為オンラインでの研修への参加が多くなっている。	毎年職員の振り返りのアンケートや管理者等との面接により、職員一人ひとりのケアの実際や力量、思いが把握され、指導が行われている。毎月事業所の実状に応じた研修が行われるとともに、外部研修への派遣もあり、学ぶ機会を大切にしている。外部研修では、感染症対策もありオンラインでの研修が多くなっている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協会の交換実習に参加し、情報交換等でお互いの事業所の良い所を取り入れ、見直す機会になっている。村山地区ブロック会の研修での交流を通じ、相互関係を図っている。昨年度はコロナの影響で交換実習は中止となったが、オンライン研修には参加している。	グループホーム連絡協議会に加入し、村山ブロック会の活動では研修や情報交換が行われている。感染対策のため交換実習は中止されているが、オンラインによる新たな試みが計画され、参加する方向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネージャーからの情報や家族と本人と面談をし、要望や困っている事等を確認し反映させている。安心して暮らせるように配慮し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は、本人や家族が不安に感じている事や要望などをしっかり聞き、入居してからの様子等の報告を密に行っている。慣れていない事も多い為、理解しやすく丁寧な説明で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、環境を考慮し、本人・家族・ケアマネージャーと連携し、支援してる。必要に合わせ、NPO法人の洗濯・送迎サービスや認知症デイケア、訪問マッサージ等のサービスに繋げた事例も多くある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体を忘れず、本人の要望や出来る事のアシストで活用できる環境を整えている。家事等を一緒に行ったり、共同生活の関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に入居者の生活状況を可能な限りでお伝えしている。毎月発行しているおたよりに写真を載せたり、面会を制限している中でも日常を理解して頂けるよう、玄関先に行事に参加されている様子の写真を掲示したりしている。新型コロナウイルス感染症対策の為、玄関にビニールカーテンを設置し、距離を保ちながらの面会を検討している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症の影響により、行き慣れた場所へ行く事や、施設内で会う事が出来ませんが、窓越しでの面会やオンラインで会話をする事で、人との関りが途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに生活が出来るよう、テーブルの配置にも気を配っている。職員が介入し、利用者同士気持ちよくいられる場であるように、性格的波長も考えてセッティングするようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の相談にいつでも応えるように努めている。又、入院による一時退居時も家族と連絡を取ったり、面会したり、サポートしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がどんな生活を送りたいのか、楽しいと感じる事は何かを普段の会話からの聞き取りや、センター方式の一部、介護支援経過表の記録を活用し把握に努めている。思いを伝えられない方は、表情や仕草から思いを汲み取る働きかけを行っている。	普段の関りの中から、生活歴や得意なもの把握に努め、センター方式を一部活用しながら、利用者の出来ることや好きなことを大切にアセスメントを行い「自分らしい暮らし」の支援につながるよう思いの把握を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での聞き取りや、自宅、病院、施設等に行き、本人、家族、ケアマネージャー、関係者より情報を得るようにしている。入居後は本人との会話を通じ、生活してきた背景を理解できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時、センター方式やアセスメントシートを活用して一人ひとりの事を把握出来るよう努力している。ユニットノートを活用し、現状や変化を伝え、職員間で情報の共有を図っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月～6か月毎にケアプランの見直しを行っている。センター方式を利用しアセスメントを行い、前回の評価やモニタリングを取り入れ、ケアプランに反映させている。ユニット会議や全体会議で職員間の意見も反映されるケアプラン作りに努めている。	毎月モニタリングを行い、計画の実施状況の把握と計画の評価が行われている。3か月から6か月でケアプランの見直しが行われている。カンファレンスを行い職員の意見等を取り入れながら、出来ることを大切にして、現状に応じた計画の作成に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケアプランの内容に沿った記録を行い、特記があれば介護録に記入している。情報を共有する事で、どうすれば良いか見直しに役立っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策の為、現在外出は行いう事が出来ておらず、地域の方との交流も出来ていない状況。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人の入居者・家族が希望する医療機関を受診している。身体状態、生活の様子を情報提供書にまとめ、家族に説明した上で主治医に報告し、又受診結果も家族に報告している。必要時、電話にて報告したり職員の付き添いも行っている。月に一回内科医の往診を受けている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望に応じ連携を作っている。原則家族による通院であるが状況に応じて事業所も支援している。通院の際は情報提供書により事業所内の情報が医療機関に提供され、受診結果が記載され、医療にかかわる情報の共有が行われている。月1回の往診もあり、家族の医療に対する安心につながっている。一昨年目標達成計画に従い、家族報告の記録方法の改善が行われている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を行っており定期的に訪問看護師による健康管理のチェックと体調不良時の観察が受けられている。急変時の対応と受診の有無の適切な指示が得られている。処方薬の変更、状態変化等があれば随時報告している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、サマリーを通して情報交換している。家族からの情報と定期的な面会と、状態変化と現状の把握をしている。退院時は、面談に行き医療連携を図ると共に、退院後の生活がスムーズに出来るよう努めている。現在、新型コロナワクチン感染症対策の為、病院で面会が制限されている為、電話でのやり取りになっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態や状況から本人、家族の意向を伺い、かかりつけ医、訪問看護師との協力体制が確保された支援方針を決めている。年に一度、家族との面談を行い、今後についての意向などを聞く機会を持っていたが新型コロナウイルス感染症対策の為行えていない。状態に変化があった時にはその都度報告し相談している。現在、施設での看取りは行っていない。	重度化した場合に対する対応に関する指針を基に、事業所の出来ること、出来ないことの説明が行われている。毎年アンケートやアセスメントで看取り等に対する方針の確認が行われている。状況の変化に応じその都度話し合いが行われ終末期に向けた方針の共有が行われている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急時にすぐ確認出来る場所に設置している。避難訓練の他に離設時の訓練や、感染症の応急的な処置の実演も定期的に実施している。新型コロナウイルス感染症発生時の防護服の身につけ方の手順やマニュアル作成、ゾーニングのシュミレーションも行っている。また、市で開催している救命救急講習に参加し消防署の職員による心肺蘇生についても学ぶ機会がある。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には職員全員が動けるように、年4回の訓練を実施している。新型コロナウイルス感染症対策の為、少人数で机上でのシュミレーションを行ったり、通報装置や機器の使い方の確認等も行っている。消防署、地域の方との訓練は行えていないが、昨年度は火災想定避難訓練を1回実施している。	今年、研修と訓練を基に避難確保計画の見直しが行われている。水害対策では、実際に隣のケアハウスの上層階への避難訓練を行っている。火災等対策の訓練では感染症拡大のため地域住民、消防署との訓練は行われていないが、事業所での訓練や机上の訓練など実施されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	センター方式用紙を使用し、一人一人の生活歴や生活を理解し、日頃から誇りやプライバシーを損ねない声掛けを意識し、心地よい雰囲気作りに努めている。又、研修資料の閲覧や、アンケートを実施したりし職員の意識を高めている。	事業所での研修等で不適切な対応の無いよう周知が行われている。管理者との面談でケアの振り返りを行いながらアドバイスをしたり、普段の関りの中で職員同士で注意し合い、不適切な言葉使いなど無いよう話し合いしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい環境作りに努めている。自己決定が出来るような声掛けや対応を意識し、入居者の自立支援に努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のペース、入浴時間、日中の過ごし方等その方の希望や体調、気分に合わせて対応を心掛けている。又、毎月アンケートにて食べたい物を聞き、週2回の自由メニューで提供している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで頂き、整容出来るよう、鏡、ブラシ等を準備したり、化粧品や整髪用品の希望があれば家族に依頼し用意して頂いている。髪が伸びたり、散髪の希望があれば家族の了承を得て散髪して頂いている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や利用者の声を参考に3食手作りしている。季節に合った食材を使ったり、おやつを手作りしたり楽しんでいる。家事についても一人一人出来る事に参加して頂く事で、楽しみや自信・意欲に繋がる様に支援している。新型コロナウイルス感染症対策の為、現在は入居者と職員は距離をとって食事をしている。	三食事業所内で調理し家庭的な食事の提供が行われている。献立等も利用者の意向が反映されるよう工夫がされている。お菓子作りのリクレーションや利用者の経験を活かした梅干し、干し柿作りなど調理することへの支援も工夫されている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する老健の管理栄養士が立てた献立で、既往歴、咀嚼や嚥下の状態に合わせた食事形態で提供している。水分・食事の摂取表を活用し一人一人の摂取量を確認している。水分が進まない方には、好みの飲み物等を提供したり工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。声掛け、見守りの中、本人の力に応じた口腔ケアを行い、必要な方へは介助を行っている。歯科受診の必要があれば、家族へ報告し、受診を促している。又、希望で歯科往診や口腔ケアの訪問も利用できる。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄状況を確認し、誘導時間を調整したり、自分で出来る事は行って頂く事で残存機能を活かせる支援を行っている。	排泄チェック表を活かし適時の声掛け誘導により、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。声掛けの際、不適切な対応の無いよう、職員全員で気を配りながら支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食前に、体操と歌を取り入れて体を動かす機会を作っている。一人一人の排便状況を把握しその人に合った方法を取り入れたり、かかりつけ医や訪問看護師に相談しながら、下剤の調節を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に合わせた時間帯や入浴の有無の確認を行い、体調に合わせた入浴を行っている。温泉のお湯を利用している為、体があつたまるとの声がある。バラやりんご、ゆずなどを浮かべ変わり風呂にししたりし、楽しんで頂いている。	1日おきの入浴ができるよう支援しているが、利用者の希望を尊重し柔軟に対応している。入浴を好まない方にも、誘導の方法や声掛けを工夫し清潔が保持できるよう支援している。身体状況により二人体制で支援するなど、安全に配慮している。事業所は温泉であり、また季節の変わり湯など工夫し入浴を楽しむことが出来ている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせた休息をとり、生活のリズムを作る事でも安心につなげている。足の浮腫みがある方には椅子に挙上して頂いたり工夫している。安眠出来るように日中の活動の工夫をしたり、眠剤が必要な方には主治医に相談し調整している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から届く薬品は、処方箋通りの薬品かの確認と、職員は薬の効能と副作用を理解するよう努めている。薬の変更があれば服薬後状態観察を行い、主治医に報告している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式の活用や、日常会話の中で生活歴や得意な物等の把握に努めている。新型コロナウイルス感染症対策で外出が制限されている為、屋内で出来る運動や装飾作り、お菓子作り、レクリエーション等と一緒にやる事で張り合いや喜びを感じられるよう支援している。家事や趣味等でも、自信と役に立てる喜びを実感している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、希望時や、声掛けで買い物やドライブへ行ったり、個別で希望に沿った場所に出向くことで日常と違う時間を楽しんでいる。家族交流会は年1回の開催で、大勢の家族参加の楽しみになっている。昨年度からは新型コロナウイルス感染症対策の為、外出中止、家族交流会中止になっており、施設周辺の桜やサクランボを見たり、神社にお参りをしたり、散歩等を行っている。	事業所では従来から個別の外出を含み外出支援を大切にしていた。感染対策もあり現在は中止している。広い事業所の敷地を活用し、隣の神社や、桜見学など戸外に出かけ、外気に触れることを大切にしている。今後感染症の状況に応じ外出の機会を増やしていくことを検討している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心する方もおり、家族と相談の上で対応している。買い物の希望がある方には、一緒に買い物に行き、見守りの中支払いをして頂き支援していたが新型コロナウイルス感染症対策の為現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、自ら電話をして家族と話をすることが出来る環境を作っている。また、職員と一緒に暑中見舞いのハガキを手作りし、家族に渡している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は天窓から差し込む日差しを遮れるようにすだれを設置したり、温度や湿度を気かけ入居者に合わせ快適に過ごせるように努めている。廊下や居間に日常の風景を撮った写真を飾り、ホールには季節を取り入れた制作物を掲示したり装飾をしている。	利用者と職員による掃除が行き届き、適切な温度・湿度管理が行われ、創作品や行事の写真などが飾り付けられ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、掘りごたつのある和室やソファが備え付けられ、利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごせるよう配慮されている。室内暖房と床暖房には温泉水が利用されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールには掘りごたつのある和室やソファ、外に向いた広い縁側が設けてある。玄関先や神社にはベンチが設置してあり、散歩の休憩の場になっている。日中自席で過ごす方も多く、新聞や本を読んだり、テレビを見たり思い思いに過ごされている。気の合う方との会話も楽しまれている方もいる。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、今まで使用していた家具や馴染の私物を持参して頂き居心地良く過ごせるようにしている。家族との写真や自分の制作した物を飾ったりしている方もいる。	馴染みの家具、家族の写真、装飾品などを持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わらぬ環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。居室の掃除は利用者と職員が一緒に行っている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で歩行の妨げにならないような家具の位置の工夫、タンスの引き出しに衣類の名前を貼り自立を促している。建物内部に危険箇所がないか毎月点検を行い改善に努めている。			